自衛隊の現場

あまり知られていないお仕事
防衛装備庁 航空装備研究所新島支所

伊豆諸島（東京都）の一つである新島に自衛隊施設があることをご存じでしょうか？　伊豆諸島には基地や駐屯地はありませんが、新島に唯一、試験場があります。正式名称は「防衛装備庁航空装備研究所新島支所」といい、行政区分では東京都新島村になります。

昭和37年に防衛庁技術研究本部新島試験場として開設されたもので、名称は変化していますが、役割は変わることなく、国内唯一のミサイル（誘導弾）等の発射試験場です。

防衛装備庁で研究開発する装備品は各種試験を行いますが、ミサイル等についても、装備化前の総合的な試験として実際に発射しての試験を行います。そういった発射試験を国内で唯一実施できる場所が新島支所です。そのため、国内で開発されたミサイル等はほとんど新島で発射試験を実施しています。

ミサイルの発射試験

試験のための施設は新島の南端に約89万㎡（東京ドーム約19個分）の敷地を有し、その場所から南方海上約25㎞、高度4000㎞の海域内に向けてミサイル等を発射して試験を行います。

新島支所は令和4年に開設60周年を迎えましたが、この間、毎年のように各種試験が実施されています。このうちミサイル等の飛しょう体の発射を伴う試験（発射試験）は、毎年10月頃に行われます。試験期間は、試験を実施する部隊（試験隊）や関係する民間企業などが島内の宿やレンタカーの多くを借り上げることにもなるため、観光シーズンを避けて、この時期に実施しています。

支所は支所長以下12人の職員で、本土から来島する試験隊の受け入れや試験施設・機器の管理を実施しています。支所長が自衛官であるほかは、全員事務官などから構成されています。職員の構成上、特徴的なのは、より給水支援を行ったり、村の各種イベントに場所を提供したり、コロナ禍で、島の学校で修学旅行などの校外行事の多くが中止となった際に、試験場の見学を設定し、施設内で卒業アルバムに載せる写真を撮影する場所を提供したりする活動も行っています。

近年の国際情勢を受けて、国産のミサイル等の重要性が増す中で、国内唯一の発射試験場である新島支所の果たすべき役割はますます大きくなっていくものと思っておりますので、今後も最大限の貢献ができるよう職員一同、努力してまいります。

（新島支所長　2等陸佐　鈴木　自明）

地域への貢献としては、災害時に支所が保有する村内でも唯一の水タンク車に村の各種イベントに場所を提供したり、コロナ禍で、島の学校で修学旅行などの校外行事の多くが中止となった際に、試験場の見学を設定し、施設内で卒業アルバムに載せる写真を撮影する場所を提供したりする活動も行っています。

近年の国際情勢を受けて、国産のミサイル等の重要性が増す中で、国内唯一の発射試験場である新島支所の果たすべき役割はますます大きくなっていくものと思っておりますので、今後も最大限の貢献ができるよう職員一同、努力してまいります。

（新島支所長　2等陸佐　鈴木　自明）

岩見沢（北海道）

第302坑道中隊、最後の検閲 28年間の歴史と伝統に幕

7月3日から11日の間、第12施設群（群長・山下拓路1等陸佐）は第302坑道中隊（中隊長・高野1等陸尉）に対し、最後の訓練検閲を実施しました。第302坑道中隊は来年春の部隊改編をもって廃編となります。

本訓練検閲は7月3日から6日の間、作戦準備期間の行動として、84㎜無反動砲の射撃動作点検や学科試験、至近距離射撃、野外衛生の実施状況を確認するとともに、7日に隊容検査を実施し、隊員の任務の理解度、12・7㎜重機関銃の射撃動作、背のう点検、車両点検、装面動作（ガスマスク）、除染などの各動作について練度を判定しました。

状況が開始されると中隊は当初の任務である「重要施設の防護」のため、移動後迅速に警備態勢を取り、翌日の朝まで厳重に警備任務を遂行しました。次に、支援任務である「SSM用坑道式障地構築とSSM用露天掩壕構築」のため中隊本部が先行班となり、上富自野演習場へ前進。速やかに集結地を占領し、第2地対艦ミサイル連隊と現地調整を綿密に行い、主力を円滑に受け入れました。また9日夕、坑道班は坑道式障地構築前に「安全祈願」を実施し、掘削を開始しました。

「コンクリート1次吹付け」の際、吹付けロボットに不具合が発生しましたが、これまでの経験を基に、人員での吹付けに切り替えて、作業を継続しました。その後は、一連の作業を工程どおりに順調に進め所望の時期までに作業を完了させました。

第302坑道中隊は平成8年3月に岩見沢駐屯地に発足以来、平成3月に28年間の歴史と伝統に幕を下ろすこととなりますが、引き続き施設支援能力、戦闘基礎動作、協同連携能力をさらに向上させ、幕を下ろすその日までいかなる任務も遂行し得るよう日々練磨していきます。

最後の検閲を終えての記念写真

旭川（北海道）

管外補充者募集ポスター優秀作品を褒章 観光・レジャーも楽しめる北海道の魅力を表現

8月3日、旭川駐屯地において、令和5年度管外補充者募集ポスター優秀作品に対する褒章が実施され、優秀ポスター第1位に選ばれた第2特科連隊（旭川駐屯地）所属の徳永初穂2等陸曹が、井上川一友第2師団長から、北部方面総監名の褒章状に師団の記念メダルを添えて褒章されました。

このポスターは、北部方面隊の魅力を発信し、任地先として北部方面隊を希望する新隊員を増加させて充足率向上等を図るため、北部方面隊として毎年募集しているものです。

受賞したポスター

ポスターは、四季折々、北海道の美しい風景写真の中央に、北部方面隊が昨年採用した「You can it」とともに、本人考案のキャッチフレーズ「北へ。」一言のみを配した、視覚に訴えるデザインであり、北海道の四季の美しさ、観光・レジャーも楽しめる北海道の魅力を表現しています。

北部方面隊では、徳永2曹を含めた2種類のポスターデザインが優秀作品として採用され、既に本年度の新隊員前期教育期間に合わせ全国の新隊員教育部隊に配布されています。現在、北海道内の各駐屯地で新隊員後期教育を受けている隊員の多くも、このポスターに少なからず啓発されたに違いないと思います。

徳島

交通事故後の処置に感謝の意 2次交通事故防止のため、交通整理

7月6日、西日本高速道路株式会社四国支社の仁科忠裕所長が、海上自衛隊徳島航空基地に来隊され、高松自動車道で発生した交通事故後の処置に対応した隊員18人に感謝の意を伝えました。

6月30日、香川県内での訓練を終えた海上自衛隊徳島教育航空群（群司令・町島敏幸1等海佐）隷下部隊に所属する隊員18人は、徳島航空基地への帰路、高松自動車道において一般車両の交通事故の現場に遭遇し、2次的交通事故防止のため、警察が到着するまでの間、事故車両の移動、散乱物の撤去、交通整理などを行いました。

当時、事故現場で隊員を指揮した橋本清隆海曹長は「2次的な被害を防ぐことができ安堵している。感謝の言葉を励みに勤務にまい進する」と笑顔で話すとともに、町島群司令は「隊員18人の半数を多とする。今後とも、いかなる状況でも即応できる自衛官であってもらいたい」と語りました。

感謝の意を受ける隊員

北千歳（北海道）

職種機能等強化（火力）を実施 矢臼別の地に最後の轟音を

第1特科団（団長・中村雄久陸将補）は7月1日から14日の間、矢臼別演習場において「令和5年度職種機能等強化（火力）」を実施しました。

本訓練は、師団および旅団の情報と火力の連携を強化するとともに、総合戦闘力を最大限発揮し得る方面隊の特科部隊等を練成する目的で実施され、訓練部隊として北部方面隊の各師・旅団および第1特科団の野戦特科部隊をはじめ、第1高射特科団、第3施設団、方面情報隊、第1電子隊、方面航空隊、方面システム通信群など約1630人が参加し、情報の収集・処理、領域横断火力の発揮について練度の向上を図りました。

また、対抗部隊として、第7特科連隊、第11普通科連隊、第1特科群第129特科大隊、第102弾薬大隊、第6即応機動連隊、第10即応機動連隊および方面混成団が参加し、敵の情報活動を回避する実際的な火力戦闘を演練しました。

7日の射撃では、矢臼別演習場で最後となる203㎜自走榴弾砲の射撃が実施され、陸上自衛隊最大口径、最も威力の高い火砲は、矢臼別の地に最後の轟音を響かせました。

203㎜自走榴弾砲の最後の射撃

市ヶ谷（東京都）

空自、自主募集優秀部隊の表彰 北音隊と南施隊に2級賞状

令和4年度の隊員自主募集成果が著しく優秀であった航空自衛隊の部隊等が、7月1日に航空幕僚長から表彰されました。

第2級賞状を受賞した北部航空音楽隊（三沢基地）は「音楽隊の任務の一つである広報演奏において、航空自衛隊の職種説明などを必ず行うことで募集周知に貢献したほか、SNSでの魅力発信で現場のやりがいを届け、募集対象者の将来の選択肢の一つとなるよう募集広報を継続していきます」と抱負を語りました。

隊員自主募集とは、自衛隊を取り巻く募集環境が極めて厳しい状況下で、部隊などで勤務する隊員各自が主体的に募集対象者の情報を収集し、地方協力本部へ情報提供する活動です。

令和4年度は、コロナ禍による活動制限が緩和された中、空自全体で2262件の情報が寄せられ、739人の入隊へ繋げました。

航空幕僚長表彰を受賞した部隊等は次のとおりです。

第2級賞状
北部航空音楽隊（三沢）
南西航空施設隊（那覇）

第1級賞状
第12飛行教育団（防府北）
幹部候補生学校（奈良）

第5級賞状
7個部隊

受賞部隊には、航空幕僚長表彰状とともに副賞として賞詞授与枠がそれぞれ贈られました。

北部航空音楽隊長と准曹士先任

千僧（兵庫県）

方面実動演習（災害対処）に参加 自治体など関連機関との連携強化を図る

第3師団（師団長・佐藤真陸将）は6月下旬、中部方面隊が実施する令和5年度第1回方面実動演習（災害対処）に参加しました。

本演習では、南海トラフ地震による大規模災害発生を想定し、航空機による物資輸送、道路寸断時における山地機動および偵察用ボートによる渡河訓練などを演練しました。

また、災害時の指揮幕僚活動、自治体・各関係機関との調整等、対処要領の検証および関係機関との連携強化・災害発生時における実効性の向上を図りました。

自治体・関連機関との調整

豊川（愛知県）

豊川駐屯地ちびっ子写生大会 家族と装備品を描こう

豊川駐屯地（司令・與藤公彦1等陸佐）は7月9日「第2回豊川駐屯地ちびっ子写生大会」を開催しました。

本行事は、駐屯地に対する理解と親近感の醸成を目的として、小学生19人および絵画教室の先生である徳升実樹様・塩田光吉様の2人を審査委員として招き「家族と装備品を描こう」をキーメッセージとして開催しました。

梅雨の最中にもかかわらず、晴天に恵まれたものの気温も湿度も高く、厳しいコンディションでしたが、参加した子供たちは、それぞれ思い思いの場所で絵の具やクレヨン、色鉛筆などを駆使し真剣な眼差しで家族と装備品を写生していました。3時間の写生を終えた子供たちは「上手に描けて楽しかった」と嬉しそうな笑顔を見せており、参加者全員での記念撮影では、子供たち全員が満面の笑顔を見せました。

閉会式では、最優秀賞1人、優秀賞2人、審査員特別賞2人の計5人を表彰し、表彰された子供たちは、誇らしげにご家族と喜びを分かち合いました。

また、参加者に対し駐屯地司令から参加賞が贈られ、大盛況のうちに幕を閉じました。

装備品を描く参加者

旭川（北海道）

隊員自主募集功労者を表彰 姉弟合わせて9人の入隊

7月19日、旭川駐屯地において、令和5年度の隊員自主募集功労者に対する表彰が実施され、北部方面総監より第3級賞詞を受賞した第3即応機動連隊（各務原駐屯地）所属の北出浩太陸士長および第4級賞詞を受賞した第26普通科連隊（留萌駐屯地）所属の長谷川幸治2等陸曹が、井上川一友師団長から記念品を添えて表彰されました。

北出陸士長は、母校である各務原高校の後輩のみならず、中学校時代の同級生から情報収集し、各務市内の各高校の学生まで幅広く自主募集活動を行い、5人の入隊に貢献しました。

なお表彰当日は不在でしたが、北出陸士長の実姉である北出みく陸士長（第3即応機動連隊所属）も2年間で4人の入隊に貢献した功績により総監より第4級賞詞を受賞しており、姉弟合わせて9人の入隊に貢献しました。

また、長谷川2曹は3人の入隊に貢献しましたが、その中の1人、現在留萌駐屯地で後期教育参加中の長谷川蒼太2等陸士は、長谷川2曹の長男。「自衛隊入隊は私が促した訳ではなく、本人の希望。自分らしく、普通に頑張ってもらえれば」とわが子の入隊を喜んでいます。

表彰後の懇談では井上川師団長から「素晴らしい成果であり、隊員一人一人が自衛隊の良さをPRしていくことは非常に大事」など、労いを受けました。

姉弟合わせて9人の入隊

大津（滋賀県）

サマーキャンプin大津を開催 1泊2日の体験型イベント

大津駐屯地（司令・野崎英二1等陸佐）は7月25日と26日の両日、中部方面混成団募集広報の日として、第49普通科連隊の支援を受け、駐屯地近傍の三重・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良の各地方協力本部から32人の募集対象者を受け入れ、サマーキャンプin大津を開催しました。

初日は格闘展示に始まり、基本救護や救急法などの訓練体験のほか、偵察ボート体験・ロープ体験・火の起こし方・飯盒炊飯などの体験イベントを実施して、駐屯地隊舎に宿泊しました。

2日目は、職種説明・見学、若年隊員との懇談を実施後、高機動車の体験試乗を行い、充実した内容となりました。

参加者からは「偵察ボート体験が楽しかった」「実際に宿泊して、同年代の隊員といろいろな話が聞けて良かった」という感想を聞くことができました。

1泊2日の体験型イベントにより自衛隊駐屯地での生活の一部を体感し、現役自衛官との交流や懇談を通じ、自衛隊志願に対する確度の向上に大きく貢献することができました。

偵察ボート体験

海田市（広島県）

即応予備自衛官170人が参加 多種多様な実弾訓練を実施

第47普通科連隊（連隊長・松本哲治1等陸佐）は7月17日から21日の間、日本原演習場において「令和5年度第2次連隊野営」を実施しました。

本野営では、即応予備自衛官170人を含む330人の隊員が参加し、手榴弾投擲、12・7㎜重機関銃、81㎜迫撃砲、01式軽対戦車誘導弾、70式地雷原爆破装置投射、個人携帯対戦車弾、対人狙撃銃など多種多様な実弾射撃を実施して部隊の射撃能力などの向上を図りました。

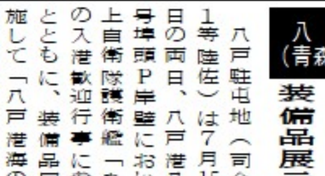
手榴弾投擲訓練は、大半の即応予備自衛官が破片手榴弾を投擲するのは初めてでしたが、訓練することで、各投擲手が正確な投擲を実施することができました。

81㎜迫撃砲射撃は常備・即自の各分隊長がそれぞれ指揮をして、互いの連携により、効果的な射撃を実施することができました。

01式軽対戦車誘導弾射撃は、防御戦闘を想定し、個人携帯対戦車弾の射撃により停車した先頭戦車に対して射撃を行い、引続き後退を開始した敵戦車に次弾を射撃するというシナリオで実施しました。

また、本野営では雇用企業主研修を実施して4つの県から、6社8人および即応予備自衛官志願者1人が本訓練を研修し、自社の社員の活躍を目の当たりにしたことで、訓練への参加に対する理解を深めることができ、自衛隊および即応予備自衛官制度のさらなる理解の促進を図ることができました。

第47普通科連隊は本野営での成果に慢心することなく、日々の訓練を通じさらなる部隊の精強化にまい進していきます。


手榴弾を投擲した瞬間

81㎜迫撃砲射撃の瞬間

八戸（青森県）

八戸港海の日行事に装備品展示 装備品展示を通じて地域との交流を深める

八戸駐屯地（司令・遠藤1等陸佐）は7月15日と16日の両日、八戸港八太郎4号埠頭P岸壁において、海上自衛隊護衛艦「あたご」の入港歓迎行事に参加するとともに、装備品展示を実施して「八戸港海の日」行事を支援しました。

15日の入港歓迎式典においては、駐屯地司令が来賓として参加し、主催者や他の来賓の方々とともに、護衛艦「あたご」の隊員を歓迎しました。

翌16日には、八戸駐屯地モニターなどの方々に対する護衛艦見学対応を実施し、参加者は護衛艦「あたご」の乗組員の丁寧な説明を受けながら、興味深く見学していました。

また、第4地対艦ミサイル連隊、第9後方支援連隊、第2対戦車ヘリコプター隊、第9施設大隊、第123地区警務隊八戸派遣隊が来場者に対する装備品展示を実施しました。

雨天にもかかわらず展示している装備品について熱心に質問される方もおり、自衛隊への関心の高さがうかがえました。

八戸駐屯地は、今後も積極的に各種行事に参加して、装備品展示などを通じて地域住民との交流を深め、自衛隊に対する理解の促進に努めていきます。

護衛艦「あたご」横で装備品展示

漢字あそび 第15回 問題・読めるかな？

初級
知らないとちょっと恥ずかしい
・牧場：緑の○○○に牛が放し飼いにされている。
・供える：お墓に花や果物を○○える。

中級
意外とやっかい
・舞踏：仮面○○○カイが開かれた。
・掘：掘った芋を○○○に入れた。

上級
自慢できるかな
・煤煙：大気中の○○○○で洗濯物が汚れる。

（解答は、6面に）
（出題・解答・LUCKY）
※数字：頭の体操はお休みします。